

第5節 弥栄中学校ジョイント人権学習

1 京都市立弥栄中学校とのつながり

文部省道徳教育読み物資料として作成した『スダチの苗木』と『峠』は、全国の様々な学校で道徳学習や人権・部落問題学習の資料として活用されている。また、この二つの作品は、人権劇の題材にもされ、文化祭等の表現活動で差別解消への思いを込めて演じられている。

特に京都市立弥栄中学校の澤田清人先生と松村泰弘先生が、私の作品を題材として脚本を書かれた人権劇『スダチの苗木』『峠』は、様々な人権啓発の集会で上演されており、特に2001年2月15日には、京都会館で開催された人権啓発の全国集会で感動的に演じられている。

この人権劇や全体学習を通して交流のある弥栄中学校と板野中学校が、お互いの道徳学習や人権・部落問題学習の取り組みをより確かなものにしていくために、板野中学校3年A組（1999年度）を中心とした生徒たちが、第10回弥栄中学校全校人権学習に招かれ、ジョイント人権学習として板野中学校の生徒が人権学習を公開し、その学習を受けて弥栄中学校の全校生徒と意見交換をする全体学習を実施するということになる。

その資料として人権劇『スダチの苗木』『峠』と、高校進学に寄せて一人一人の生き方を問いかけた弥栄中学校の人権劇『生きる』を題材とすることにした。

このジョイント人権学習は徳島県の公立高校の入学試験の翌日、2000年3月11日に実施されたが、卒業式を3日後に控えた慌ただしい日程にもかかわらず、私にとっても生徒一人一人にとっても生涯忘ることのない授業となる。

2 知らなければよかったと思う弱い心が私の中にある

人権劇『スダチの苗木』『峠』は上演時間135分という大作であり、板野中学校の生徒たちの何人かは、そのビデオを保護者と共に自宅で鑑賞している。それゆえに人権劇を見た感想の中には、家族の中にある部落差別を強烈に自覚したものがある。その現実を公開討論の中でもひたむきに語ったI子は、人権劇に寄せる思いを「京都に期待するもの」と題して、次のように綴っている。

【最近、受験勉強に追われる中で「人のつながりとは、どういうことだろう」とずっと考えていた。けど、今回弥栄中学校の先生方が中心に取り組んだ人権劇のビデオ（『スダチの苗木』と『峠』）を見て、久しぶりに部落問題や人間のつながりについて考えることができたが、改めて自分の無知に気づくと共に、「私」という人間の弱さと汚さを思い知らされたと思う。

このビデオの中で、森口先生の中学時代に実施された人権学習の場面があったけど、その授業の中で何人かの人たちが、「もう部落差別はなくなったんじゃないかな」「今はもうこんな学習しなくてもいいんじゃないのか」という意見を出していた。私も同じような考え方を少しだが持っていたよう思う。自分の周りには部落差別はないと思い込んでいた。でも、このビデオを見て、また考えさせられた。少なくはなっているかもしれない部落差別…。けれどそんな簡単にはなくならない。そう実感させられた。

それからこのビデオを父と母といっしょに見たことも、私の中で大きな変化をもたらした。「幸司」

が結婚相手の両親から、差別的な言葉を浴びせられている場面で、不意に母が「A町（母の実家）でも、あんなこと、言よったけんなあ」と言った。

私は一瞬身体が固まったような気がした。自分の耳が信じられないような、信じたくないような気がした。私はビデオを全部見終わってから、ずっと心に引っかかっていたこの言葉の意味を母に聞いた。

「今も、A町のじいちゃん、ばあちゃん、そんなこと言よん？」

母は「うん」と答えた。本当に驚きショックだった。その母方の祖父も祖母も私たち姉妹にすごく優しく、面倒をみてもらっていたので、「あんないい人たちなのに…」とつらくなつた。そして、母は私の祖父母と、家について話してくれた。

母の実家は、農業をしており、約300年ほど続いている家らしい。土地もたくさん持つていて、その土地の税などの管理は、すべてその家でやっている。私も小さい頃から、よく遊びに行っていたので、古い家であり、また畠や田をたくさん持っていることは知っていた。

そういう家柄もあってか、祖父母は小さい頃から、部落差別の芽を植えつけられ、今もまだ間違った考え方を持ち続けていて、その意識は子どもである母たちの姉妹にも受け継がれているようだ。特に母の姉で、この家の長女である伯母は、部落について間違った考え方を教え込まれているだろうと母は言っていた。

隣で聞いていた妹が、「兄ちゃんは？」と母に尋ねた。「兄ちゃん」とは、私にとっての従兄弟で二人兄弟の長男であり、後々この家を継いでいくだろう人物である。母は「さあ、たぶん、言われどん違うん」とよく知らないようだが、そう答えた。信じられなかつた。

祖父母も、伯母も、従兄弟の兄ちゃんも、すごくいい人で、優しくて、大切な人たちなのに、この家では差別的な発言がとても多いそうだ。

「私も鬱ったんやけどな、あかんかった。」

母は悲しげに言った。母は祖父母のことを責めたりしないが、根強い部落差別に負けているように見えた。母は正しい考え方を持っているが、祖父母の考え方を正しい方へ向けさせられなかつたようだ。

私はというと、鬱うこともせず逃げていた。いつだったか、部落差別のことについて学んだとき、先生が「家の人たちとも、この差別について話し合ってみてください」と言っていた。そのとき、父母とは話そうという気になったが、祖父母、（父方のいっしょに住んでいる）祖母とは話そうとはしなかつた。反対されるのが怖くて、大切な人たちが悪者であつてほしくないという思いから、部落差別について話そうとはしなかつた。でも、差別する人が悪者ではないことを学んだ。「差別を憎んで、人を憎まず」松村智広さんの言葉だ。そのことを学んだのに勇気を出して話すことができなかつた。

自分の中で「きっとこの人たちは部落差別なんてしない」と思い込んでいたからだろう。なら本当のことを見た「今はどうか」と聞かれても、正しいことを知つてもらえるようにする勇気はない。

表向きの理由は「大切な人たちと、言い争いたくないから」でも、本当は「嫌われたくないから」

と、自分が一番という考えがあるように思う。「大切な人たちだからこそ、正しいことを知ってもらるべきじゃないか」と、もう一人の私が言うが、「しょせんきれいな事」と弱い自分が姿を見せる。前へ一歩踏み出すことさえできない。今まで何を学んできたのか情けなくなる。気づかないふりをして、知ったとたん、逃げてしまう。そんな弱い、汚い心を持った自分が嫌になる。でもどうすることもできない。いやしようとしない。

今までずっと間違った考えだって、きっと正しい考えに直すことができると思っていた。しかし、現実を目の前に突きつけられて、うろたえ、隠れて、知らなければよかったと思う弱い心が私の中にある。私は一度この弱い心と真っ正面から向き合わなければならないと思う。今回の京都行きはいい機会だと思う。しっかり自分をみつめ直していきたい。】

3 こんなに自分のことや友だちのことを身近に思える時間はなかなかない

また、ある生徒は「私の思う人権学習のよろこび」と題して次のように綴ってきた。

【人権劇「スダチの苗木」の中に描かれている中学時代の人権学習の場面が心に残っている。この話し合いについて私が思うことは、人権学習、人間としての生き方を考える学習に、やり過ぎとか「これで十分」という制限はないということだ。

人権学習の中で「無知」ほど恐ろしいものはないよく言うけど、本当にその通りだと思う。劇の中で「知らない方がいい。部落を知らなければ、差別も起こらないだろう」という人が出てきた。私も少し前まで同じ意見だったので、少しドキッとした。でも今は「それは違う」と思っている。「知らないから差別をしない」というのは、裏を返せば、「知ってしまえば差別は起きる」と言うことだから、深く長い時間をかけて勉強しても、すぐに自分の日常生活に生かせるかどうかわからないし、人の数だけ意見がある。そして、問題に対する答えも人それぞれにたくさんあるから、どうすれば一番いいのかをみんなで話し合うのは楽しい。(もしかしたら答えには決まった正解がないのかもしれない)

話し合いをしたことがない人が聞いたら、「かつたるい話」だと思う人もいるかもしれないけど、私は話し合っている時間が大好きだ。「本気に考えれば」だけど、こんなに自分のことや友だちのことを身近に思える時間はなかなかないと思う。】

4 農業も差別されているということを考えていかなければならない

そして、何よりうれしかったのは、共にこの人権劇を見た保護者が、私との出会いと重ねて、自分自身の精一杯の生きざまを綴った手紙が届いたことである。私の大学の先輩である保護者からの手紙を紹介させていただく。

【先生の資料を題材とした人権劇を見せていただきました。第一部、先生の大学時代編、娘が中学1年の時の家庭訪問の日にお聞きしていたので、「そうだったのか」とよくわかりました。そして、第一部の最後に先生が奥さんにスダチの苗木を見せていった言葉、「僕の原点はここにある」この言葉が印象に残りました。

私も京都で大学生活を過ごしました。下宿は左京区上高野八幡町、大都会の中の田舎町、北を仰げば比叡山、すぐ東に高野川の流れ、毎日叡山電車で登校しました。私は大学時代を通して、自分の出身県がコンプレックスの塊の元でした。友だちに徳島から来たといえば「どこ？」と聞き直され、バイト先のおばちゃんたちには徳島は徳島県ではなく「四国」と言われ、「徳島県」という県名のあまりにも低い知名度に、少なからずショックを受けたものです。

さらに先生が、お父さんの職業を大きな声でいえなかつたのと同様、私もできるだけそういう場面になるのを避けてきたものです。同級生は医者の娘とか、造船会社の娘とか、会社社長の娘、私は下田舎徳島県出身、親は農業をしているとは彼女らの前では言えませんでした。

1970年代、日本は高度経済成長へと突き進んでいた頃で、農業蔑視も進んでいたと思われます。私の祖父は「農家の後継ぎに教育はいらない」という考え方の人間でした。だから私の父はA高校を出たものの家を継ぎ農業をしていました。父の弟はB高校から大学へ行き、市役所に勤めているにもかかわらずです。そういう悔しい思いを娘にはさせたくないという父は、私を大学まで行かせたのです。

先生の原点が京都にあるように、私や夫の原点も京都にあります。口には出して言わなかつたものの、「徳島&農業」コンプレックス。これは同級生との貧富の差を強く感じたことにもあります。自分の親は日に焼け土にまみれて一生懸命働いて、どうにか暮らしているのに、世の中には想像もしていなかつたようなお金持ちがいるということが痛い程わかつた。それがこの大学時代でした。しかし、「生まれ」だけは自分の力ではどうあがいても変えることができません。変えられるのは努力した自分の中身、私は教師を目指し、高校と中学の英語の教員免許証を手に卒業、教育実習で教えたK中学校の生徒の親に頼まれ、自宅で小さな塾を開きました。

塾というのは生徒たちと直に触れ合うのには最適なところと言えます。学校のように何十人の生徒を相手にするのではなく、5人～6人ずつの小さなクラスで、私の伝えたいことを伝えられました。あれから20数年が過ぎ、未だに片田舎で細々と子どもと接する毎日を送っています。

私は思います。私のやってきたことはこれでよかったのだろうかと…。何十年か前の祖父の考え方の方が正しかつたのではないだろうか。

時々こう考えことがあります。今は誰もが「教育、教育」と言っています。教育のおかげで日本人が中流意識を持つことができたでしょうが、そのためにいわゆる3Kと言われる仕事をますます避ける風潮が強まり、農林水産業は職業の片隅に追いやられてしまいました。国を底辺で支えるべき、これらの職業に明るい未来はありません。こうしたのは学校教育なのではないかと思われるのです。幸い娘は教師を目指しています。親のこうした思いをしっかりと受け止めているので、一人でもこの思いを伝えてほしいと思っています。結局、農業も差別されているということを考えいかなければならないと思います。】

5 生涯最高の授業をつくるために、京都に行き、学び語り合いたい

人権劇『スダチの苗木』『峠』は、弥栄中学校の生徒たちがまず文化祭で演じ、それと弥栄中学校の先生方を中心に、京都市東山で部落解放運動に関わっている多くの人たちが共に演じているが、その演技は迫真的演技である。それは、2001年2月15日の京都会館における人権啓発の全国集会までに、2回京都会館で上演されており、私はその2回目の上演を直接見せていただいたが、一つ一つの場面が私の中に響いている。

私は人間の精一杯の姿には、人間を変えていく力があると思う。そんな思いを共有し合うジョイント人権学習をつくりたい。そんな願いの中で公立高校の入学試験の翌日、2000年3月11日土曜日に、生徒たちを京都に連れていくことを決断した。

そんな私の思いを象徴するK夫の生活ノートを掲載する。

【今日、道徳の時間に、京都の弥栄中学校と交流全体学習を行うことの意味について意見があった。最後の10分ぐらいのところで僕が交流全体学習について思うことを話をしたら、僕の発表に3人の仲間が、その思いを返してくれた。僕はそのときものすごくうれしかった。

僕一人の意見に3人の仲間がいろいろな思いを返してくれる。これは本当にすごいことだと思う。他の学校ではなかなか経験できないことだと思う。これが板野中学校3年A組のすごさだと思う。

そして今日、僕が今まで発表できなかった理由がはっきりと自覚できた。それは発表したことでもみんなに陰でコソコソ言われないかということばかりを考えていたからだった。こんなに精一杯の思いを返してくれる仲間がいるのに、自分の中にある卑屈なものが自分を支配して、おどおどしてきた自分がある。「歩かなければ道はできない」ということを、今日僕は自分の中で初めて自覚することができた。

それと僕の発表を真剣に聞いてくれる仲間のすばらしさも、今日の学習でつくづく思った。みんなの真剣な視線が、僕に勇気をくれる。発表をすることも大事だが、仲間の話を真剣に聞くことは、発表するのと同じぐらい大切なことだと思う。僕の意見がみんなの中に入っていくよろこび、仲間の意見が僕やみんなの中に広がっていくよろこび、この学習はそんな共感を大切にするからすばらしいんだと思う。

僕はこの1年間、いろいろなことを学んできた。森口先生とも部落問題のことについて学んできた。僕はそれを誇りに思いたい。そして、この学習で僕は自信がついたし、学ぶことの本当の楽しさを知ったと思う。

だから僕は最後の思い出として、生涯最高の授業をつくるために、京都に行き、学び語り合い、思いっきりみんなとのつながりを楽しんできたいと思う。】

多くの生徒が幾度となく口にし、文章として綴った「生涯最高の授業をつくるために、京都に行き、学び語り合い、思いっきりみんなとのつながりを楽しんできたい」という言葉、弥栄中学校体育館で実施されたジョイント人権学習はまさしく、そんな生徒の思いが会場全体に広がった授業となつた。そのジョイント人権学習のすべての記録と、授業後多くの参観者の中から返されたメッセージを掲載する。

【授業記録】京都市立弥栄中学校ジョイント人権学習（公開学習）

主　題 「つながるよろこびを求めて」

2000年3月11日(土)1時30分より

資　料 人権劇「スダチの苗木」「峠」「生きる」

会場 京都市 弥栄中学校体育館

徳島県 板野中学校 3年代表

授業者 森 口 健 司

1 公立高校入試の面接があったけど、自分が思っていることが全部言えた

T1：たくさんの先生方とのつながりの中で、こういう機会をいただいたこと、弥栄中学校の先生方や仲間の皆さんにいろいろな思いを返しながら、「今」「ここ」を生きる自分自身に問われていることを考えていきたいと思います。特にみんなは昨日公立高校の入試を終えたばかりです。進路決定という場にたって、今まで学習してきたことと、これから始まろうとしている新しい世界での生活、新しい人間関係、そこに期待も不安もある。そういう思いで今日の日を迎えたわけですけれど、徳島からバスで京都に来る途中、弥栄中学校の仲間（今高校2年の学年になつたいる人たち）が演じた『生きる』という人権劇を見せてもらいました。いろんな思いを持ちながらこの場に向かってきたわけですけれど、『生きる』という人権劇を通して、またいろんな世界が広がったと思います。あの人権劇にみんなの思いを精一杯返しながら、ここでみんなとまた大きな一歩を踏み出していくドラマをみんなでつくれたらと思います。今日の人権劇に寄せて、『生きる』という劇に寄せて、また今まで学習してきた資料を含めていろんな思いを出し合いながら、みんなと深めていきたいと思います。だれを最初に指名するかということについて、さっき食事の時、何人かの子に、「私を一番に当ててよ」ってプレッシャーをかけてられているんですけど、みんなに意見もらいながら、みんなで深めていきたいと思います。

MN(女)私はこの3年間全体学習とかやってきて、いっぱい得るものがあったって言っているやけど、自分のことを人に伝える力を持てたのが一番だと思う。昨日、公立高校入試の面接があったんやけど、自分が思っていることが全部言えて、これは全体学習とかでやってきた力だろうなって思つたし、仲間を自分からつくる力もできたと思う。(私が進学しようとしている高校には)板野中学校から私は一人だけしか受験していなかったんだけど、いっぱいいろんな子が話しかけてくれて、一人でおるのは不安だったけど、仲間はできるんやなあって思った。私は、仲間がようけおると思うんやけど、入試の前日には10人か20人ぐらいから電話がかかってきて、みんな「頑張れよ」と言ってくれたんよ。そういうんで自分はいろんな人に支えられるとなって思って…。私は自分と会った人は自分と考えが違っていても、どんな考え方を持っていてもみんなが仲間って思っていて、先生とも今は生徒と先生っていう仲やけど、卒業したら私の中では、みんなが先生も含めて仲間になると思うんよ。これから高校へ行って、自分が板野中学校でてきたこととかをバネっていうか、自分がしてきたことや仲間としてきたことを励ましつつ感じで自分のなかで生かして、「板野中学校の時は頑張っていたのに…」っていう感じで悪く考えたり（自分を）追い込んだりしたくないし、自分が後悔しない程度に正しい道をまっすぐ行くんでなしに、迷いながらも自分が自分らしく生きる道を見つけていきたいって思う。不安なこととかいっぱいあるけど、今日のこととか、仲間のこととかを考えよったら乗り越えていけるって思うし、大きくなつていって、いっぱい思い出とか良かったなあって思えることをたくさんつくっていきたい。

T2：ありがとう。最初はすごく緊張していたと思うけど、その中で精一杯言葉をくれた。MNさん、きっと顔が熱くなっていると思うけど、それがすごい自分の力になっていく、そういう語りをみんなでつくっていって

ください。

MM(女)私も仲間といっしょにやってきたことが思い出に残って、これからもずっと自分がやっていくことに関して、その原動力になるってことを聞かせてもらったんですけど、私もそういうふうに思います。みんなの中でのやる気っていうのは、その場その場でここでちょっと気まずくなないようにとか、この場をどうにかしたら後はどうにかなるだろうっていう考え方で、ずっと進んでいくのはつまらないって、最近思うようになってきました。いつも仲良くやっていったりとか、この間までは私もいっしょにいたらストレスがたまるとか、いっしょにいたら、こっちの言いたいことが言えないとか、そういうことを考えながらみんなといっしょにいることもあるし、会う必要がなかったら会わなくなってしまうような仲間だったら、卒業間近にしているんですけれど寂しいなあと思うので、今日はこういうふうに参加できて、またみんなと仲良くなりたいし、これからずっと会う必要がなくなっていても、自分が会いたいから会うっていうふうな感じで、つながりをつくりたいなって思います。

T3：みんながこういうつながりをつくり合いながら、絶対こういうことは口にしないって、これは自分の心の中にしまっていることや、我慢することって捉えていたことが堂々と語れ、それをきっちり聞いてくれて、返してくれる関係になっていく。そういう学習の中で一人一人が解放されてきたと思うんです。『スダチの苗木』っていう作品を通して、『峠』という作品を通して、こんなこと思ったんや、部落問題は遠くのことって思ったけど、実はそうではなかった。自分のすぐそばにあった。今日の『生きる』という人権劇から感じた思いや自分の進路、自分の生き方っていうのを自分で語って、みんな自身が豊かなものをつかんでいく時間にしたいと思う。みんなの思いつなげてください。

TT(女)3年間全体学習とか、学級とかで勉強てきて、私は自分がごつい変わったのが自分でわかるんよ。実際、こんなにたくさんの人の前で発表してもあまり緊張せんし、ちゃんとやれるようになったっていう人がすごく大きいと思うんよ。はじめは先生に背中を押してもらひよって、当ててもらっているばかりだったけど、私は変われたと思うんよ。それは一人ではたぶん変われんかって思うんよ。今も周りの子とかがいっしょにおってくれたけん変われたし…。高校に行ってもずっとこの仲間は切れんと思うんよ。私、高校になったら新しい仲間ができると思うけど、その子とも切れんような仲間づくりをしていきたいし、今日もここに来るんがすごく楽しみだって、どんな出会いがあるんかなあって楽しみだって、ここでもいい関係っていうのがつくれたらいいと思います。

SA(男)僕もごつい緊張して言よったんだけど、入試の時と面接の時以上に緊張しとって、何を言ったらいいのかわからんけど、自分がこのことをやってきてほんまによかったと思う。何がよかったですって言ったら、部落問題の知識が広がったことと、あと仲間がすごくできて3年生になって徳島県中学生集会で司会進行を努めて、そこでまたいろいろな話をしよって、あの頃はこういうことができんかったんよ。それで3年A組と他のクラスの子も来とるけど、3年A組の雰囲気もいけるんかいなって思うくらい、ちょっとわからんかったんやけど、最初は嫌がつとったんやけど、本氣でいろんなことを言い合っているうちに、どうも自信がなかったことがいつの間にかしやべれるようになったし、そのことで自分自身がいつの間にか明るくなつたんよ。それが僕は一番うれしいんよ。京都へ来るバスの中で弥栄中学校の人が演じた『生きる』っていう人権劇を見せてもらったけど、自分たちも文化祭で『進路決定』一搖れる心一という人権劇を演じたのと比べると、弥栄中学校の人権劇は、とにかくごつい芝居がうまいなあって思って、みんながその役になりきって、すごい自分の気持ちを表現していると思ったんよ。その劇にもあったけど、部落差別っていうのは同和地区の子だけが勉強するんでなしに、同和地区以外の子でも全体が勉強していかないかんていうこと…。すべての

人が学ぶっていうことは一番大切なことで、この問題をそのままにしていくことは、すごく恐ろしいことなんやけん、これから高校生になっても自分で積極的に部落問題学習に取り組んでいきたい。

T4：部落問題に関わってその中でずっと自分をじっくりと見つめていた。仲間を見つめていた。家族を見つめていた。いろいろな世界を広げていった。そういうことをつなげてください。

2 自分の身の回りには部落問題はないと思っていた

IM(女)私も中学校3年間部活動したり、いろんな活動に参加してきてごつい仲間が増えて、1年や2年の頃より3年生になってから世界が広がったっていうか、仲間が増えたけん、ごつい毎日が楽しかって、新しいクラスにもいい友だちとかができて、中学校を離れるのがごつい悲しくて、昨日一昨日と高校入試を終えて、高校に入って仲間をいっぱいつくりたいっていう期待はあるけど、やっぱり部落問題にぶつかった時がごつい不安です。最近にも自分の身の回りには部落問題はないと思ったんやけど、ごつい身近に部落差別がある、その部落差別から自分は逃げてしまつて、今まで3年間やつてきたのに、自分は何をしてきたんやろうって思ったんです。そんなんで高校に行っても頑張っていけるんかなあって思うけど、そうやって嫌になったら、また中学校の時の友だちとか、先生たちに相談して逃げんようにしていきたいと思います。

T5：IMさんがちょっと言いかけた身近にある部落問題、そのことをみんな自身で直視していくことがみんな自身を大きく成長させていくと思う。今の意見も含めて、みんなの思いつなげてくれる？

3 全体学習がなかつたら、自分自身を出せないまま終わっていたと思う

AM(女)この3年間ですごく変わったと思います。1年生の時の全体学習は人の前で話すことがごつい嫌で全体学習や話し合いをするのがごつい嫌だったんやけど、1回発表するんで当てられて、それで発表したらちょっとずつ自信がついてきたっていうか、発表するのが楽しくなってきた自分があります。それで、人の前でしゃべるんことに自信がついたんがわかるんだけど、中学校2年の時に頑張って徳島県中学生集会とかに行つたら、いっぱいの人がいるけど、多くの人の前で話せるようになったし、自分から進んで手を挙げるようになったけん、すごい中学生集会に参加してよかったです。それに全体学習がなかつたら、もうずっと自分の中で閉じこもっているっていうか、自分自身を出せないまま終わつたと思うし、この全体学習とか人権や道徳の学習を通して自分は変われたなあと思います。

T6：こういう学習をやることで思いもよらない現実が見て、衝撃を受けた人もいると思う。でも、そういう現実をみんなで見つめ合いながら、そこから踏み出すためにこの学習があるんだと思う。現実に絶望せんために、どのような状況にあってもいろんな人とつながって、人間としての豊かさを大切に生きる、そのための学習なんだと思う。みんなが生きる現実、そこにはいろんな問題がある。それを解決していく力、そういう力をつけるための学習だと思う。具体的なこと出していこう。

KT(女)この学習をやってすごい自分的には成長して、まず素直になれたことと、自分を好きになれたことと、思いっきり仲良くなれたこととか、弱かった自分がこの学習で反対に強くなった気がするんよ。この学級のつながりで、周りにいる人たちを好きになれたし、この学習に出会えてよかったです。森口先生と出会えてよかったです。いろんな人と出会えてよかったです。それで、人とか友だちの中でも話よったら間違つとうことがあったけど、その間違っているっていうことが、前より言えるようになったし、自分はこう思っているということが、素直に言えるようになったような気がするんよ。だから、この学習があつてよかったです。自分のことが好きになりました。

T7：いろんな現実を出し合いながら考えていこう。

4 本気で思いを語り合う授業に巡り合えてよかったです

MM(女)みんなでマイクを持ってしゃべったりっていう学習があって、本当によかったですなあって思います。小学校の時とかは答えの分かり切ったことばっかりで、最後にどうなるのか絶対わかっていて、何が正しいのかもちろんとわかつって、みんなが意見を出す必要がないような授業がほとんどで、みんなの意見も「これは悪いことで、こういうふうにしたらいい」っていう感じで、自分が何をやっているんだろうっていう授業をいつもやられてたんですけど、こういうふうにみんなが集まって自分が言いたい時に言いたいことをしっかりと言うっていうのは、そのときになってどういう話になるか分からないし、そのときによって自分の思っていることが違うと思うし、どんどん考え方成長していくから、前に言っていたことと、もしかしたら違うこと言っているかもしれないっていうんが、本気の話し合いになっていくし、教科書とかに載っているような決まり切った話は、絶対にみじめな人の人っていう人が出てきて、「こんな思いは絶対にしたくないからやめましょう」みたいなそんな感じの話になっていくから、そういう思いをするっていう人が身近にいることを徹底的に捨ててしまって、「こういうふうな人をつくらないようにしよう」とか、「自分もそうなりたくないから、他の人もやらないように…」とか、「そういうことがあつたら、みんなが注意しましょう」みたいなことになっていくことが、内容として分かっているのに、そういう授業をやらされてきた寂しさっていうんがあったから、中学校でこんな本気で思いを語り合う授業に巡り合えてよかったですし、卒業する前にこの授業に参加できたのは、すごくうれしくて、やっぱりここに来てよかったです。

T8：差別がいけないっていうことは、みんなわかつるとるわけよ。人をいじめたらいかんっていうことも、みんな知つとるわけよ。でも日常の生活の中で、いろんなこと言われて、すっごいしんどい思いをしたり、つらい思いをしたりする。いろんな人との関わり、人間関係の中でおこっていくその差別やいじめをみんな自身が心にいっぱい汗をかきながら、顔を熱くしながら、みんなの言葉で語り合いながら、それを本気で聞いて本気で返す。こういうやりとりの中で自分の中にあった卑屈なものが洗われていく。そのための学習なんです。でも、今日あの『生きる』っていう人権劇の中であったけど、中学生時代にあれだけ輝いた人間が、違う人間関係の中に入つていたら、ものすごいしんどい思いをし、浮いてしまう現実がある。そこでみんなはどんな人間関係をつくるの…。どう歩くの…。それはもうそこに迫つてきている現実なんよ。どのような状況にあっても、人間として豊かなつながりをつくる力、それが生きる力だと思う。自分の生き方を自分自身で本物にしていくためにもこの時間を大切にしようや。

YS(女)3年間学んできて、すごい最近とかでは前向きに良いことばっかり考えていたんですよ。だけどちょっと身近なことを聞いて、身近なところにある差別のことを聞いたら、今までのことっていうんがすごく揺らいで、自分は差別をしないとかいう優越意識とかもつとるけん、差別をしよる人を見て、苦しくなつたりすると思うんよ。私は差別していることが恥じてそんな気がして、そういう中で私は、そういうことがすごく苦しくなるけん、逃げとつたりしつたんやけど、最近っていうか、今はなんとなくどんな時でも、いろんな人を好きになれるような自分になりたいって思つて、苦しくなるっていうんは、その人を尊敬するんをやめるっていうことのような気がするんで、どんな時にでもいろんな人を好きになれる自分でいたいし、これからもいろんな状況になると思うけど、いっぱいつながつていきたい。

T9：はい、どうぞ。つなげて…。きっと手を挙げて下さい。

IM(女)さっきも言ったんやけど、高校になつたらわからんっていうか、どうなるかわからんのよ。今は自分の

ことをごつい言えるようになったけど、前は全体学習とかで誰かが自分自身のことを話してくれる意見を聞いて、それで自分も話してもいいんやなあっていう安心があつて、こういう場で話せるようになつたんやけど、それが高校に行って、自分とつながりが全然ない人たちといつしょになって、そこからどうにかして、いつしょに笑い合つたりできる関係をつくつていくっていうんが、今ごついできんような気がしてきて…、いつかだれかが全体学習の時に中学校を卒業したくないって言つた子がおつて、ああ自分も今そう思ひよるなあって、最近ずっと考えています。それはやっぱり本当に汚いところ、自分の汚いところがごついあって、それをさらけ出したくないっていうところもあるから、だからなかなかクラスとかでも、ぶつかり合つた時に逃げてしまう。それも汚いところなんやけど、真正面からぶつかつていつて自分の汚いところを認めていきたくないから、逃げていく自分があります。具体的なこと言うと、お母さんの里の方が、すごい差別意識を持つと、それを聞いたのがすごい最近だつて、それに今までずっと目をふさいどつたけど、もしかしたら差別をほつといたかもしけんって思つとつたけん、ずっとこういう話せんかったんよ。最近知つて、ほんまに身近にあって自分は、ごつい逃げよつて汚いところを持っているんだなあって思つて、今からその人たちの考え方を直せばいいのに、私にとって愛する人たちで、とても良い人たちだから、差別したらいかんって言うことがなかなか言えん…。それやつたら部落差別を許しとることやけん、自分が差別をしとることなのに、それでも逃げている自分がつて、今まで自分は何をしようとしたんやろうって、わからんようになって、ほんまは高校もみんなといつしょの所に行きたいって思うようになって、それでも自分の進路は自分で決めしたことやけん、高校へ行つてもっと強くなりたいと思ひます。

T10：弥栄中学校の先生方が、中心になつて演じてくれた『スダチの苗木』と『峠』っていう作品をIMさんは自分の家族と見たんよ。その後半の『峠』の作品の中に出てくる恵子の父親と母親のやりとりの場面で、IMさんのおかあちゃんがおかあちゃんの実家の父親も母親もこういう話をしよつたなあ、こういう言い方をしよつたなあっていうのを彼女は聞くんですよ。そこでいろんな思いを彼女の母親と語り合う。それでも歩こうとしよるわけですよ。そこやと思うんよ。10月に実施した高校3年の先輩と進路や人権・部落問題学習について語り合つた全体学習を覚えているだろう。あの中である先輩がこう言つた。「高校は差別の嵐や」って…。差別していることにみんな気づかんのよ。差別落書きを書いたり、誰かをバカにしたり、差別することが常識やって…。そんな人間関係なんやつて…。その訴えをものすごい不安をもつて聞いた人もいるやろう。でも、いろんな現実がある。だから豊かに生きるんよ。人間っていうんは変われるんよ。そのための学習なんよ。IMさんの思い、きつと受け止めて返していこう。

5 お父さんとお母さんがどっちかが部落だったら私は生まれてなかつたって言われた

MN(女)私は入試に行つとつて、行き帰りの時間に2時間くらい、行くんに1時間半くらいかかるて、お母さんと二人でずっとおつて、いろんな話をしたんよ。その差別の話やつてしまつ…。お父さんとお母さんがどつちかが部落だったら私は生まれてなかつたって言われたし…、だけど私はいろんな差別を見てきとつて、もうショックとかは思わんのんよ。結婚するときに身元調べとかもしたって全部聞いたんよ。それを聞いたのは昨日だったんやけど、差別はあるんやなあって思つて…。だけど、3年間やってきて自分の親が変わってきてることを見てきていて、まだまだ差別とかしよると思つんやけど、自分の親だって苦しんどるの知つとるし…。親は私をすごいなって言よるんやけど、私は自分のしよることをすごいと思わんし、一番当たり前のことをして、それで自分が嫌つて思うことを何で認めていかなかんのって思つし…。そんなん誰が見たつておかしいってわかつとるだろう。そういうんをしよる人がおつて、どんなにそれが自分の大切な人で

も、それに対して目をつぶるとか私はできんのよ。部落差別は部落外の人にも関係あるっていうだろう。私は部落外なんやけど、「関係ある、ない」って言う前に関係あるんはわかりきっとことなんよ。実際、部落外の人がみんな差別するわけではないし、苦しんどるんは部落内の人だけではないと思うんよ。私だって部落差別があるために苦しんできたんよ。せっかく仲良くなった子とかを家でどこの子って言われて、そういうんですすごい悔しい思いをしてきたんよ。それは自分にとってほんまに嫌やし…。そんなん部落差別がなかったら、そんな嫌な思いすることないんよ。

自分が頑張れたのは姉ちゃんがおったけんやと思うんやけど、私の家は差別ばっかりなんよ。おばあちゃんとか絶対おかしいと思うんよ。顔を見たら部落の人は分かるっていうんよ。そんなこと分かるはずないだろう。だけどそう言うんよ。私は真友会っていう高校生友の会っていうのに行っているんやけど、それで解放文化祭とかで歌を歌ったり、いろんな取り組みをするのが地元のケーブルテレビとかに映ったら、自分の孫がそんなんに出とるんがごつついつらいって言うんよ。わけのわからんことを言うわけよ。そんなんおかしいで…。お母さんだって難しい話って言うけど、難しくないわけよ。私は家で高校へ行けるか行けんかわからんくらいなんやけど、親とかいろいろ勉強とかも教えてくれるんよ。けっこう勉強はできるのに、このだれでもわかる当たり前のこと難しいって言うわけよ。今まで学習してないっていっても、今言よるけんわかるはずなのに、おかしいなあって思うんよ。

私自身、今まで人の気持ちを考えたりすることは、すごいことだと思っていたことがあるけど、自分が嫌なことを人にしないっていうのは一番簡単やと思うんよ。自分が嫌ってわかつとることを人にしよるっていうことは、この人は嫌なんだろうなあってわかるだろう。そういう当たり前のことやっているだけなのに、私は今まで、いっぱいいろんな人にすごいなあって言われてきたんよ。多分何百人の人にすごいなあって言われるとと思うんよ。だけど、当たり前のことを見て、よく冷静になって考えたら、なんもすぐくないわけよ。先生も、これだけしゃべれる中学生はお前くらいじゃって言うけど、自分が正しいって思っていることについて話したり、しゃべったりすることは一番簡単なわけよ。自分の思いをちゃんと言つたらいいだけやけん…。それなのに「難しい、難しい」って固められてきて、難しいままにされるとと思うんよ。たぶんいろんな差別があるけど、すべて基本は簡単と思うんよ。どんな勉強よりも簡単と思うんよ。こういうんをもっと柔らかくして勉強していきたいと思う。

T11 : MNさんに返して。

6 本気で部落問題について語り合っていく全体学習が、当たり前になつていかなあかんと思う

SA(男)僕もよくしゃべるけど、しゃべり過ぎやけん、親にお前、口答えし過ぎやって言われる悪い例もあるけど、しゃべれる力をやっぱり自分自身、持つとったほうがいいと思うんよ。実際、僕も感情的なところがあると思うんやけど、その人が間違いに気づいていくように、豊かに語れる力を自分自身が身につければ、高校に行って僕らのまわりで何か言ってたら、何を言よるんって、僕らは笑って返せるような、差別しよるお前の方が恥ずかしいことって思うように、いろんな思いを豊かに伝えていける力をつけたいと思うんよ。

このクラスでも頑張ってきたけど、部落問題学習が嫌なやつがおるけん、最終的に僕らがごつい頑張って頑張ってしようたんよ。それで、なんか嫌じやみたいな感じで言うて、僕らは頑張ってもあかんのかって1回諦めて、その友だちを切ってしまったんよ。それに対する先生の意見は、切っても何も解決せん、分かるまで言わなしかたがないということだったんよ。全体学習が有名になってから、いろいろな学校で全体学習が行われていると思うけど、こういう本気で部落問題について語り合っていく全体学習が、当たり前になつ

ていかなあかんと思うんよ。僕は将来、体育の教師になりたいと思つたけど、もし教師になつたら先生の思いを受け継いで、こういう教育っていうんをしっかりとやつていかなあかんということをもっと問い合わせたいんよ。多くの先生が本格的に取り組んでいたら気づくやつもおるんよ。

日常生活で話をしよって、友だち同士やつたら、人をいじめたり差別したり絶対しないと思っていると思うけど、だんだん友だち関係ができてき、遊びに行つたりしよつたら絶対に差別つていうんは出てくるよ。今、話し合いよつてそんなんないっていう子もおると思うんやけど、絶対につきまとつくるんよ。差別はいかんっていうことを今、教師とか親とか教える立場に立つている人たちが、もっと世間に部落差別の意味を訴えていかないかんと思うんよ。今すぐにはむりやと思うけど、みんなで関心を持っていくことがすごい大事だと思う。

T13：はい、時間がきとんで、一応まとめとして誰か意見くれるかな。特にIMさんから出たことを含めて…。

7 こういうところで話をするっていうのはやりやすい

YN(女)今まででは人権学習っていうのは、人権のことを探るための学習で、人権のことをある程度分かっていれば他の人をバカにしたりとかはしないし、こういう勉強をする必要がないと思っていたんです。私も実は部落差別にかかわることがいっぱいあるって思うんですけど、それをあえていう必要はないんじやないかってずっと思つていたし、今も半分くらい思つています。でも、人権学習の話とかし過ぎるっていうことはないと思うんですよ。勉強もし過ぎつていうことはない。すればするほど何か物足りなくなつてきて、本当はそんなことあつたらいけないんだけど、自分が言おうとするたびにしんどい思いをするから、逃げたりとかする環境になつたら、これから高校に行ったときにどうなるんだろうって考えることができます。

こういうところで話をするっていうのはやりやすいんです。「ここ」っていうのはそういう話をするところっていうのをみんなが思つて聞いてくれるから話がしやすい。泣きそうな話が出るのも「ここ」だからなんです。一人一人の身近なところで話したら、「この人、何を言よん？」って言われたら、ちょっと恥ずかしいかなあって思うけど…。そういうことを1対1やグループで話ができたらすごい素敵なんだろうなって思うんですけど、今の私にはそんなことができてないのが現状です。

T14：そういう力をつけるための学習だから、ここでいっぱいトレーニングしよるわけよな。

YS(女)さつき言つていた意見とか、MNさんとかが言つてゐるのを聞いて、私は親とかが差別しよるのがショックだつて、一番堂々と言われたけん、いろいろ質問もしてみたんやけど、やっぱりおかしいけん聞いたらおかしいと思っても、人っていうのは良い面と悪い面があつて、IMちゃんが言つたけど、親戚の人も良いところあるし、差別しているのが嫌つて言つたけど、そう思うと思うけど…。悲しがつてはいるっていうんを言うときにごつつい苦しくなると思うんやけど、楽しくなつていかなつて思うんよ。MNさんとかも言つてはいたけど、日常でも楽しくやつてきたいなあって思つて、いろんな人と関係をつくりたいし、親のことも好きやし、親戚のことも好きやと思うけん、みんなが楽しくなれるように頑張つてきたいと思います。

8 人のことをとやかく言う前に、自分が行動していかなあかんなあって思う

NN(男)僕は部落問題について、やっぱり自分のことを言つていかなあかんと思う。僕はこの3年間、自分との部落問題学習を照らし合わせてはいたら、差別がなくなるんかとか、なくせんのではないかって考えてはいたし、なくせるんだったら努力したいし、なくせんのだったら努力せんでいいんじゃないかなって思うことがあって、自分自身も差別つていうんを本当になくせるんかって、最近まで悩んできつたっていうこともあつたし、差別がもしなくせんのだったら、自分が努力しても意味ないがなあつて、弱気な気持ちになつ

たりしたけど、自分自身の答えとしては差別がなくなる、なくならないに関わらず、そのときにとりたいって思う行動をとりたいって思うし、差別はなくせん、なくなるとかいうよりも、自分の正しいって思う道に進めたらいいと思います。現実は人を傷つけたり、自分が今言っていることとつじつまが合わないことがあるし、なんか二人の自分がいるようで、自分に自信が持てないっていうか、自分に自信が持てないからなかなか発表ができないことも多いし…。友だちのことを言うにしても良い面が見つからず、悪い面ばかり見てしまうっていうことがあります。

この全体学習っていうんを重苦しく考えすぎているんじゃないかなって思うし、もっと気楽に学習していいともいいんじゃないかなと思います。周りに差別の現実に出会ったときも、重苦しくまじめに問いただすんではなくて、気軽な気持ちで言ったほうがいいんでないかなと思います。重苦しくても、気楽にいってもなくせるもんはなくせる、なくせんもんはなくせんと思うし、重苦しく考えるよりは、自分は正しいことをしているやけん、自信を持っていこうっていう明るい気持ちでいった方がいいんでないかなあと思います。でもこの学習をすればするほど、現実は厳しいっていうか、人の心っていうんがどんなに汚いかって、こんな人間もおるんか、こんなこともあるんかって考えるのも苦しいっていうか、もっと良いものでないんかなあって思ったり、人って良いなあって、自分自身思ったりします。

人のことをとやかく言う前に、自分が行動していかなあかんなあって思うし、自分のことをまずみんなに伝えていくっていうか、この学習でまず一番最初に思うことは、重苦しく考えることも大事だけど、自分の気持ちを周りの友だちが発言したことに対して、自分はこう思ったっていうことを素直に返していくことが大事でないかなと思います。

T15：自分にできること、自分に問われとること、やっぱり日常の生活の中で空気を吸うように、嫌なことが入ってきたり、苦しくなったりする。でもその中でやっぱり自分できることしかできんのや。その自分にできることを精一杯頑張っている自分を好きになっていく。そういう1日1日。輝く3原則って、この1年間みんなが訴え続けてきた意味や。その意味をまた弥栄中学校の仲間と深めてくれたらと思います。またいっぱい意見くれるだろうし、いっぱいまた返したいと思います。10分間休憩しますから、よりリラックスして楽しみましょう。とりあえず、あいさつして休憩に入ります。代表の人、お願いします。



弥栄中学校ジョイント人権学習 於・京都市立弥栄中学校体育館

【授業記録】京都市立弥栄中学校ジョイント人権学習（全員学習）

主　題　　「つながるよろこびを求めて」

2000年3月11日(土)2時30分より

資　料　　人権劇「スダチの苗木」「峠」「生きる」

会場 京都市 弥栄中学校体育館

徳島県 板野中学校 3年代表

京都市立弥栄中学校 全校生徒

授業者 森 口 健 司

1 人間として豊かに生きる力をみんなで培っていく時間にしたい

T1：休憩に入って、いろんな仲間と言葉を交わしたら、また元気になって、いろんな思いが広がり、いっぱい言いたくなつたと思うんです。限られた時間なんですけど、せっかくこういう形で出会えた一人一人の思いを語り合いながら、みんな一人一人が豊かな思いを語っていき、豊かな思いを返していき、人間として豊かなものをつかんでいく時間にしたい。これから的人生の中でみんなはいろんな現実にぶつかるだろう。その現実の中で人を切っていくのではなく、決して諦めるのではなく、歩き続ける自分、いろんな人とつながり、豊かな人間関係をつくっていく自分、新しい世界で自分自身を自分の手で鍛え続けていく自分、そんな人間として豊かに生きる力をみんなで培っていく時間にしたいと思います。先ほどの公開授業の中で様々な思い、様々な現実が語られました。そんな仲間の精一杯の思いに、自分自身の中にわき起こってきたものを豊かに返し、人間として共にキラキラ輝いていく人間としてのつながりをつくっていく時間にしましょう。それでは挙手をしてください。

YI(襟冲・男)僕は板野中学校の皆さんのお見を聞いて、高校に行ってどのように頑張っていこうとしているのかが分かったし、部落差別を一人一人がどのように解決していこうとしてるのかが分かったし、どのように友だちとつきあっていくことが大切なのが、自分でいろいろと分かって考えることができました。ありがとうございました。

2 部落の人と結婚するって言うたら反対するって言う

AK(女)さっきの公開授業の中で言いそびれたんですけど、私も小学校の時から部落差別について勉強してきたんですけど、実際私は部落差別というものはもうないだろうと甘いことを考えていましたんですけど、本当に部落差別が現実にあるということが、自分の前に浮き出てきたのが中学校3年の時ははじめくらいで、お父さんとか、おばあちゃんとかが、ずっとあそこもどうやらこうやらっていうのを聞きよって、よく聞きよつたら部落の子がどうたらとか、やっぱり部落の子がそうなんやつとかみたいなんを聞いて、そのときびっくりして、やっぱりあったんかって。ないって思っていたからショックだったんやけど…。しばらくした時に、お父さんと話をしてあんまりまだ自分は部落について意識っていうか、そんなん一応したらいかんっていうのは知っとたけど、そのことについてまだあんまり言えることができんかったんやけど、話しているうちにおかしいっていうのが分かってきたけん、とにかく親には口がたつ方やけん、感情的になって喧嘩別れみたいになってしまったんやけど、その後何回かしているうちに一応話してっていうのにはなるようになったんよ。そんでまた何回かして、私が部落差別について勉強したことにあるまいといいとは思ってないらしかったんやけど、もうしばらくしてなんやけど、最後の方は私が部落差別について勉強することについては、そんなに前みたいに言わないし、そのことについてはしてもいいっていうか、許すって言ったらおかしいけど、まあこういう学習することについてはわかってくれたんやけど、やけど、自分が部落の人と結婚するって言うたら反対するって言うんよ。なかなか話ってできてないんやけど、部落問題について勉強することについては

理解してくれたけん、ちょっとずつ時間をかけて、豊かに説得できるようにしたいと思います。

MF(女)今まで自分で勉強してきたけど、私は今、人を差別する時があって、今までしてきたことは何だったんかなって思うときもよくあるんだけど、こういう状態で高校生活とか、やっていけるんかなあと思うときがあります。IMちゃんが高校生活に不安を抱いているっていうのを聞いて、私も今からの高校生活に不安って言うか、自分に関しての不安かもしれないけど、不安がいっぱいあります。高校生活で自分が今までしてきた勉強が生かせるんかなあって考えたときに、ほんまに周りに誰も知らん子ばっかりで、自分もたぶん流されてもできない状態になってしまふと思います。でもこの部落問題学習を通して弥栄中学校の皆さんやみんなとずっとつながっていきたいって思つたし、ちょっとでもみんなといたいと思うけど、ずっとこのままの関係が続いていくか、今すごく不安です。

KO(女)みんなは地元の高校にたくさん行くけど、私は違うところにも行くようになります。もうちょっとで卒業っていうところになって、みんなと違う高校とか受けたんは、もっといろんな人と知り合って話をしてみて自分の世界を広げてみたいって思ったけんやけど、いざ入試を受けて、もうちょっとで卒業っていうことになったら、怖くなってきて…。もし、高校に受かってその高校に入って生活の中で差別的なことを見つけたら、自分はどうするんやろうとか思います。ちゃんと言わなとか思うんだろうけど、隣はみんな知らん子ばっかりで、なかよくなつたとしても、日も浅いし…。だけど、頑張って言わなあかんって思ったけど、自分の言いたいことを我慢してしまうかもしれん。けど、3年間全体学習てきて、先生とか友だちが言っていることを聞いていたら、私は逃げたらあかんと思うけど、いざとなったら逃げ場所がちゃんとあるって思える。だから今仲が良い子とかといっしょにおりたいって思うし、それに今まであんなに発表とかできんかったけど、最後やし、これから自分の自分をちょっとでもえていきたいと思って、この京都での全体学習にやってきました。

3 今朝送ってくれたとき、お父さんが「ここは同和地区やけん、気をつけな」って言う

TU(女)今朝、お父さんに集合場所まで送ってきてもらったんやけど、そのときに狭い道があつて、そこでお父さんが「ここは気をつけな」って言うたけん、「気をつけなつて、どうして?」って聞いたんやけど、そしたらお父さんが「ここは同和地区やけん」って言つたんよ。それで、すぐに「何で?」って言い返したんやけど、「同和地区やけん、気をつけな」ってずっと言いよるんよ。私たちは勉強してきているから違うって言えるけど、お父さんとかはそういう勉強をしてないからなんもわからんと思うんよ。でも、もしそういうふうに全体学習とかしてなかつたらお父さんに、「同和地区やけん、気をつけえ」って言われとつたら、そのままほんまに危ないんかなって思つていて、何も言えないままだと思うんやけど、やっぱりそういう勉強をしてきているから、そういう偏見を聞いたときに「違うよ」って言えるんやけど、今日の朝は、そんなに時間がなかったので、自分はそういう話をお父さんにできんかったんやけど、家に帰つてもう一度お父さんときちんと話ををしていきたいと思います。

T3: 今の意見も含めてまた後で返してね。

4 高校の先輩なんかは涙を流して私たちにいろんな話をしてくれた

YK(女)私は3年間この学習をしてきて一番大事だと思ったのは、自分と向き合うってことだと思うから、今日は今までの自分を振り返ってみようと思いました。私は中学生になってから、自分の意見を発表するようになったんやけど、どうしても周りから反感をかうことがありました。それは私が意見を言うときの態度が、偉そうに見えたからだと思います。今思うといつも人のことばかり言つていました。それはきっと自分自身

と向き合ふのが怖かったし、自分の中の差別意識に気づいてしまうのが怖かったからだと思います。でも、昔の私はそれが分かりませんでした。考えなしに意見をすらすら言って自己満足していました。だから、そういう私の内面に気づいた人は、ちょっと違うぞと私に反発したんだと思います。でも中3になってから松村智広先生に来ていただいたり、高校の先輩に来ていただいた時に、私はハッとしたしました。高校の先輩なんかは涙を流して私たちにいろんな話をしてくれて、心にぐっと刺さるものがあって、私は今まで何をしてきたんだろう。いつも口だけだったんではないか、これだけではいけないと思うようになりました。それから私はいろいろ考えて、ちょっとずつでも変わってこれたと思います。この学習は「自分を好き」になるためにあって、自分を好きになったら周りの人たちも、どんどん好きになっていくと思います。私は本当にこの学習をしてくれてよかったと思うし、板野中学校の生徒でよかったと思いました。これからは高校生になって自由な世界に入っていくと思うんですが、絶対に今日したこととか、今までやってきたことを忘れないで、強い自分でありたいと思います。

5 他人の差別には敏感なのに、人を傷つけていることに気づかない

SM(女)私は高校入試が終わって、すごい今気が抜けているんですけど、それまではかなりつらい日々が続いて、受験の苦しさっていうんではなくて、それ以前にどこかの高校を受験するかで、かなり家族と対立したんですよ。私はすごいスポーツが好きで、それで高校に行きたいんですけど、その高校を受験することを反対され、「なんで反対するん」と聞いたら、「遠いけん」とか「交通が不便やけん」と言われて、なんでそんなことではあかんのかなあって思って聞いてみたら、その高校は「昔から悪いけん」と言われて…、なんでそここの高校が全部が悪いわけではないし、昔のことをそういうふうに言わなかんのかなあって、すぐいつらかったです。でも、今はその高校に受験して、すごいうれしいんですよ。

差別っていうんもあるけど、見た目とか、人から聞いたことを知りもしないのに、勝手に判断したりするのが家族の中にもあって、すごいショックでした。あまりこういうのは得意でないので文章を読むんですけど、私は小学校4年生の時から数年間、様々な差別について学んできました。差別というのは本当にいろいろあります。人種差別、男女差別、障害者差別、そして部落差別です。他にもいろいろあるけど、これらのこととはすべて自分とは何か違うっていう意識の中から生まれました。しかし、人間は一人一人が違うことは、すべての人が分かっているはずなんです。ただ、自分のちっぽけさや、小ささを認めるのが怖くて、少しでも自分より劣っていると思う人を見下げ、自分が優位に立とうとしているんです。また差別はそれをとっても矛盾があります。自分が生まれた土地に、なぜ負い目を感じなければならないのか、それは差別する人がいるからです。差別する人がなくならない限り差別はなくなりません。分かり切ったことです。でもそれができない人はたくさんいます。私もそうかもしれません。差別は駄目、それは分かっていることなのに何かあった時、その中にすごく醜い感情が流れています。口に出すことさえあります。人を傷つけていることに気づかず、自分が差別的な言葉を発していることすら気づきません。他人の差別には敏感なのにです。自分自身まだ未熟で他人に説教できる資格なんてありません。だから友だちは自分の醜いところを見つめ、認めることなんだと思います。そうすれば自分が好きになることができると思うんです。私は前より自分のことが好きです。よい友だちと出会い、よい自分になっていくことに気づくとき、毎日が充実しているなあと思います。

SM(紳紳・男)もう少しで中学校生活も終わって高校入学と思うんですけど、高校に行ったら、いろんな考えを持った人がたくさんいると思うんです。その中で良い人間関係をつくっていくためには、まず自分を理解しても

らって、自分からみんなのことを理解することが大切だと思います。そして、より深い友情をつくっていきたいと思います。

T4：一生懸命聞いて、たくさんの思いを出し合って、すごい豊かな時間にしたいと思います。

TK(女)私も、自分でもこの中学3年間に、すごく変わったなあって思います。1年や2年の時はそんなに全体学習とかでほとんど発表したことがなかったんですけど、3年になってから、時々だけど発表ができるようになって、自分はどこか変わったと思います。あと、小学校の時に社会科で公害について勉強したんですけど、そのとき私は、公害の発生したところには行きたくないってことを言ったことが、ずっと思い出になっているんですけど、そのときの私は、今の自分が思うとなんか嫌だなあと思うのは、やっぱり授業してきて、自分のことが変わったからだと思います。

T5：一生懸命聞いて、一生懸命自分をかえしていこう。目で聞いてね。

6 自分の本心や思いを全部さらけ出していかなくては、本当の友だちはできないと思う

KH(歯科・男)僕ももうすぐ卒業で高校行くんですけど、その高校はこの学校からは誰も行かなくて、すごい田舎なんですよ。そんな全然知り合いのいない環境で、友だちをつくっていくっていうことは難しいと思うし、やっぱりそういうところでは自分の本心や思いを全部さらけ出していかなくては、本当の友だちはできないと思うんです。だからそういう本心で言わなかったら、薄っぺらな友だちになつてまうし、本当の友だちをつくっていきたいと思うから、これからもずっと自分の心を変えていきたいと思います。

T5：どんな世界に入つても、豊かな人間関係をつけていく力を今育てていきよるんやけどな。その部分について意見ください。

TF(男)僕は中学校の3年間で、全体学習とか学活の時間でいろんなことを学んで、先輩の意見とか聞いていたら、高校に行ってからごつつい不安で、高校に行くまでにもう1回こういう機会があるって聞いて、京都へ行って他の人の意見を聞いて、本当の友だちを高校でもつくっていこうかなあと思いました。だから意見があつたら聞かせてください。

7 人間っていうのは自分が悪いと分かっているものは絶対に直せる

MT(歯科・男)一番最初の意見の時に『スダチの苗木』と『峠』の先生たちがやったビデオを見たって聞いたんですけど、僕たち生徒も文化祭の時に『スダチの苗木』と『峠』の劇をやったんですけど、そのときに一番印象に残っているのは、恵子のお父さんなんんですけど、一番最初はあんだけ差別的な発言をしているのに、最後の方になればそれが一変して、そのことを忘れているというか、自分が悪いことをやっているっていうことを分かって、恵子たちの結婚を認めてくれるっていう場面が、一番印象に残っているんですけど、あそこまである人が変われたのは幸司たちの性格が、すごいものがあると思うんですけど、人間っていうのは自分が悪いと分かっているものは絶対に直せるっていうか。自分が悪いって分かっていることを他人に言ってもらったり、きっかけさえあれば直せると思いました。僕は今まで部落差別とかそういうことを身内とかからは聞いたことがありません。今日のこの学活の時に皆さんが、自分の身内からそういう話を聞いたと聞いて、まだ身近にあるのかなあって不安に思ったんですよ。考えてみたら自分が差別とか、そういうことを親と話をしたことがないけど、やっぱりそういう話をしたりするのは、怖いから自分は逃げていたのかもしれないなど、今思いました。これから高校に行ったときには、いろいろと他のところで友だちをつくるためにも、さつきKH君が言ったように自分のことをちゃんと言ってやっていこうと思います。

8 初めて学年の中で話をしたのは、わいの親父が部落差別で死んだということだった

JF(男)わいは中学校3年間でこうやって発表できるようになったのは、3年からなんやけど、初めて学年の中で話をしたのは、わいの親父が部落差別で死んだってことなんよ。そのことを徳島県の中学生集会の全体会で発表させてもらったんやけど、そんなことができるようになつたのも、森口先生のおかげやと思つとるんよ。先生にはいろんな機会を通して鍛えてもらつたので、これからは森口先生に返していかなあかんなあと思います。高校に行つたら板野町には真友会（高校生友の会）っていうんがあるんよ。それで毎年部落解放全国奨学生集会っていうんがあるって、それが今年徳島で開かれるので、これからもそういう機会を通して、発表していきたいと思います。

T6：JF君に返してくれる。

IS(男)僕は部落差別をなくすには、やっぱり高校に行ったときに、差別する人がおると思うけど、その差別する人なんで差別するか聞いて、その問題を解決していつたらすぐなくなると思います。

T7：またいろいろ返してよ。

9 TUちゃんのおっちゃんが私の家の前の道路に入つてくるとき、すごく嫌がつてゐるのがつらい

TT(女)私は学習会に参加していくて、部落差別の現実がまだ十分分かってないけど同和地区なんよ。今、AKさんとかがいっぱい言ってくれたけど、差別、部落差別っていうんはいっぱいあるんよ。私のじいちゃんは怖くないし…。TUちゃんのおっちゃんは、私の家の前の道路に入つてくるときに、すごく嫌がつて…。…怖いつて言うん…。変わらんっていうか…、部落外の子も地区の子も学校、楽しく行けるし、別にそんなん何も変わらんし、私ら住んでる所に来るんに危ないけんとか…、段になつとるところもあるし、地域で狭くなるけど…、けど、私は何も変わらんし、学習会に行っても仲間とかおるし、通いよるのにいっしょに頑張ってくれる子とかおるけん…。こういう勉強せんかったらよかったです…、そういうふうに思う時もあるんよ。そしたら差別とかわからんけん…。高校に行ってもつらい思いしてっていうか…、差別が分かっとつたら、いろいろな思いが分かるけんつらいんかもしれんけど…、差別に勝つていかないかんって思うかもしれんけど…。他の人は何もわからんのやけん、つらい思いせんでいいでえって、思う時もあるんよ。でもこの勉強せんかったら、先生とかともこんな関わりはなかったと思うしな、学習会に行きよつて集会とかでも友だちになった子とかもおるし、そういう子に出会えたっていうんもあるけん、これからもそういう友だちつていっぱいおると思うんよ。弱いところあるけど、でも私はたぶんぶつかつて行けると思います。

T8：TTさんにつなげてくれる。MNかえしてくれる。

10 大切な友だちと大切な親が差別するのがごつついつらい

MN(女)TTちゃん言よつたけど、私は自分が差別される方でないっていうふうに親に言われとつて、それで、そんなんやろうなって思うんやけど…、部落差別のことやけど、今は自分が差別者だったっていうことは、私はわからんのやけど、自分が大切って思つてゐる友だちとかを自分の大切な親が差別したりするの、ごつついつらいことっていうんがわかつとるんよ。何も違わんっていうんわかつとうし、おかしいことってわかつとるんやけど、やっぱり親とかは言うわけよ。どこの子って言う感じで…。だけど、私は多分逃げとるところもあるはずよ。板野だったら板野で苗字を言つただけでも分かるって言う言い方を平氣とするし…、そんな中で、私の大事な友だちが差別されるの嫌やし…。TTちゃんとか…。みんないっぱい好きなのに…。差別されるのむかつくし、自分がいくら言つても聞いてくれんって思つたらつらいし…。頑張りよるつもりで

も、なかなかわかってくれんし…。その間にもTTちゃんとか差別されよるん自分は知つとうで…。自分が差別されるのもむかつくし、かなりつらいけど、友だちはほんまに大事なのに、部落外の子だけ友だちでおりっていう感じで、おじいちゃんとかおばあちゃんとかは言うんやけど、私はみんなのこと好きなんよ。入試が始まるまでは、つながりは必要ないって思いよったんよ。それは自分がいろいろあせつとったけんやと思うんやけど、今日とかごっつい卒業したくないって思うし、このクラスでおれてよかつたって思うし、だから自分の気持ちでいろいろ変わっていくと思うんやけど、やっぱり自分の仲間を選びたくないし、親とかに差別されるんとかは、自分が差別されるんも嫌やけど、せつかく仲良くなつた友だちとか、みんなが差別されるのって嫌なんよ。

KT(襟中・女)差別には差別する人と、差別される人とそれを見ている人がいると思うんですけど、それは差別をしている人が、差別はいけないんだって思ってやめていくのが一番いいと思うんやけど、それができないから今でも差別がなくならないと思います。だから差別をされている人や見ている人が、差別をなくすようにこうやって私たちが学習しているから、この学習を生かしてこれからどんな差別に会うかわからないけど、それに立ち向かっていけるように考えたいと思っています。

HY(襟中・男)さつき意見を言った『峠』の劇についてですけど、恵子の両親がなぜ改心ししてくれたかと言うと、幸司が必死に誠意を見せたからだと思うんですよ。僕たちもこれから高校に行きますけど、高校で差別する人に出会ったら、やっぱり自分は真剣に差別をしてほしくないっていう思いを示さなくてはいけないと思います。

MK(男)両親とかだったら話をするけど、おれはそんなん聞いたこと、ほんま1回もない。さつき誰かが言よったような気がするけど、だぶんそれはおれが逃げているからかな…。それが高校に入学できたとして、おれは頭の先から差別意識みたいな話を自分の親が、自分を育てた親が、差別意識を持っているのを知るのが怖いから、親からそういうことを話されないからいいやんって思って逃げていると思う。いつか誰かが言っていた気がする。親子っていう関係でなしに、友だちみたいな関係っていうんをどっかで聞いたような気がするんやけど…、そうなっているかなあって…。このままだったら一生親とこれ以上の仲になることはできんと思うし、多分親もそんなことを…。だから今まで逃げてきて、おれは気づいてこれからは多分親の差別意識とか、身近な人の差別意識とかもそうやけど、その先に必ず友だち以上の関係に、そうやってなんでも言い合える人間をつくるような、親や祖父…、また言うは…。これからTTちゃんが言よる話はある意味であると思うし、そのとき言うんごっつい怖いと思うよ。

T9：まさに関係をつくる場なんよ。自分の精一杯の思い、それを精一杯聞いてくれる仲間がここにできるわけよ。みんなで歩くんよ。歩くから道はできるわけよ。自分の中でこういう思いが広がってるんや。こんな気持ちになったって、意見くれるかな。しっかり聞いてね。

KK(襟中・男)僕は今年ね、高校に残ることになったんですよ。正直言ってだるいって思っていました。でも、今思うとだるいって思っていた自分がくやしいと思います。その悔しさをバネにこれからいろいろなことを考えていきたいと思います。

11 人間への信頼と尊敬の中で生きられたら、私たちの人生は豊かなものになっていく

T10：人間はね、本当に変われる。さつき『峠』の話をしてくれたでしょう。あのモデルになったおばあちゃん、当時82歳だったんです。82歳になって自分の孫娘が部落の青年と結婚するという現実にぶつかった。部落の人と全く関わりがなくて、部落の人は全く違う世界の人やと思っていた。知らないということは、ものすご

い差別意識を持つんです。でも、変わるんです。『峠』という人権劇は、私が書いた作品を澤田先生や松村先生があのシナリオにしてくれたんですけど…。私のおばあちゃん、私の嫁さんのおばあちゃんがモデルなんです。最初、孫娘である私の嫁さんが、部落の青年（私）と結婚すると聞いたときはショックを受けたけど、1回、2回と出会い、いろんな話をする中で、見事に変わっていかれるんです。出会って3回目くらいのときです。「森口さん、徳島市の広報に部落問題の啓発の記事が載っています。その記事読んで一生懸命勉強しています」と笑顔で話され、おばあちゃんが「頑張ってくださいね」って言われる。その言葉にどれだけ勇気をもらったことか。そして、その家族が見事に私を受け入れてくれる。人間は変わるんです。この前日曜日に94歳で亡くなられたんですけど、そのお通夜の席に、葬儀の席に、私の両親がやってきます。その両親も見事に受け入れてくれて、いろんな世界が広がっていく。あまた、おばあちゃんが私たちの生きる世界を広げてくれたと、しみじみ思うんです。人間っていうのは変わりうる。人を差別したり差別されたりという世界から解放され、人間への信頼と尊敬の中で生きられたら、私たちの人生はどれほど豊かなものになっていくか…。人を差別したり、差別されたり、人を切る関係でなくて、人をつないでいく仕事、つないでいく生き方、みんな自身を自分自身を本当に豊かにしていく、そういう自分をつくっていく学習なんです。人のためじゃないんです。自分なんです。私なんです。僕自身なんよ。高校に行った。社会に出た。そこで楽しい人間関係をつくる。そこでどれだけ人を大事にできるか。大事にできたか、大事にできるか。そういうことを問い合わせながら、いろんなつながりをつくっていくんや。自分にきっちり問い合わせながら、いっぱいみんなの思いを出してくれた。涙も出た。思いもうち明けた。そんな思いを聞いて自分の中に何が広がったのか、そのことを後、残った時間、思いつき語ってほしい。挙手してください。

12 差別はいけないことだとわかっていても、高校を選択するにあたって高校を差別していた

FA(女)私は今進路決定において、高校への入学がそこに来ているんだけど、私が進路を決めるについて親とかも話し合いをしてて、私も差別はいけないことだとわかっていても、自分が高校を選択するにあたって、高校を差別していました。だから、そんな中である人が、私にそれは間違っているんだって言ってくれました。だから私は間違いに気づけて、その間違っているっていうのを一つの私の経験として、これからも生かしていきたいと思いました。だから私がこれから高校へ行き、大人になっていく上で、人権・部落問題に関わっていった中で、自分に何ができるんだろうかって考えてみると、やっぱり今の経験を高校やいろんな場面に立ったときに、自分が周りの人たちにどう伝えていくかっていうことが、大きな課題になると思います。この前『スダチの苗木』のビデオを見たときも、先生が言えなかつた思いが描かれていたけど、いろんな人と自分の思いを表現しながらしっかりとつながっていきたいと思います。

13 TUさんは小学校の時からずっとといっしょのに、親から差別されてごつついつらかった

AM(女)今だったらみんなの前で言えるけど、私もTTちゃんがさっき言ったみたいに同和地区です。小さい時からよく勉強してきたんやけど、全然意味がわからんことやったけん、何でこんなことをするんやろうって思ったけど、中学校に入ってからごつつい自分に関わっていることやなって思って、それから取り組むようになったんやけど、今の現実の話を聞きよったら、ごつつい自分の住所とか書くのも嫌になって、親とかに言ったら「S地区」はごつつい悪いとか、言われたりするって、前に言よって、そんなん言われたら、どっかに行った時とかに、住所を書かないかんってなったら、そこに書くのが嫌になって、ただ昔のことで差別されるとるだけ…。今そんなんせんでもいいのになって思う。やっぱりおばあちゃんとかの年代は厳しかったみたいやけど、今はそんなん関係ない時代なのに、昔のことをずっと思っているっていうのは、ごつついおか

しいと思うし、別にみんな同じ人間だろう。別にそんなん変わったことしてないのに、ただ地区がそうやけんって言われるん嫌やし…。TUさんとは小学校の時からずっといっしょやし、けっこう相談とかにものつもらって、仲良かったけん家とかにも行きよったんやけど、今朝、聞いたっていうたら、やっぱり友だちやけん仲良いと思っても、親はそういう目で見て…。そういうふうに親からは思われて、ごつついつらかった。そんなこと言わされたら、もう行つたらいかんのかなあとか思って、ごつついつらかったし…。今とか、同和地区でも…、同じやんって言ってくれたのは…、ごつついれしかったです。苗字とかで地区の人間って決めつけられ、苗字でいろいろ言われて、差別をされるというのも聞いたことあるし、そんなことでも決めつけてほしくないって思いました。

T11：いろんな思い広がっていっていると思う。それをみんなで満たして、また自分が解放されるそういう時間にしよう。

14 僕自身、養護施設から弥栄中学校に通っているけど、差別をなくしていくための力をつけたい

SM(妹中・男)僕はこれからも人権学習を続けていきたいと思います。僕自身、養護施設から弥栄中学校に通っているのですが、社会に出て仕事をする時、あいつは養護施設に通っていたって言われて、その仕事が駄目になつたっていうことにならないためにも、こういう学活で差別をなくしていくための力をつけたいと思います。

T12：『峠』の最後に書いてくれた言葉の中に「人間というのは幸せになるために生まれてきた。幸せになるために今を生きている」という言葉があるけど、みんなはそういう自分、そういう社会、そういう世界をつくりていくためにこの学習に取り組んでいる。みんなで豊かな人間関係をつくっていく、そんな力を育てていこう。

YI(妹中・男)僕も部落出身なんですよ。僕が出身っていうことは1年くらいの時に母親に聞いて、それでその頃は親父と離婚してて、親父はよく母親に暴力を振るったりしていて、部落の人は暴力を振るう人ばかりじゃないっていうのを聞いて、ああそんなんやなって別に気にしないできたんやけど、ここの中学校にきて部落差別っていうんは、もっと身近にあるもんだなあと思いました。

T13：学び続けることが人間を本当に豊かにしていくし、本当の強さを育てていくことになる。いろんな思いを出し合いながら、自分の生き方をみんなで点検していこう。

15 TTちゃんとか、AMさんとか見よったら、何もしてあげれん自分っていうのが一番悔しい

KT(女)私ははっきり言って部落差別のことをよく分かってないんよ。差別にあったこともないし、これが差別って言われても、差別って思わんと思うんよ。私が一番差別でむかつくことは、部落差別が悔しくて泣きよつたり、そのために訴えよるっていうか、そういうTTちゃんとか、AMさんとか見よったら何もしてあげれん自分っていうか、やっぱり一番悔しいし、「いける」っても言ってあげれんし…。泣きよっても何を言いいかわからんし、そういうんをどうにかしたいと思うけど、正しいことをしたとしても、そのときだけやしって思うんよ。そのときどうしたらいいかっていうか、もっとそんな差別をしっかりとなくしていく勉強してきたと思うんよ。それで、さっき一人で寮に入っていくって言っていたけど、多分私は友だちができない子っていうのはホントつらいと思うんよ。できる子とできん子がたぶんあると思うんやけど、その差っていうのはたぶん自分がどうかだと思うんよ。自分が好きでなかったら、友だちが好きになってくれんし…。一人で寮に入ったとしても、自分が冷静で、自分のことをごつつい誇りに思ったら、ちゃんと友だちっていっぱいできると思うけん、頑張ってほしいし、私も自分のことを好きになりたい。

T14：はい。ありがとうございます。時間がきました。あと、このことどうしても言いたい。この気持ち確かめたいことを発表してくれたらと思う。いろんな現実、今朝起こったことを語ってくれた子もおる。すごい苦しい、その家族のことを語ってくれた子もおった。そういう現実を明らかにしながら、みんなで問題を解決していくわけよ。現実を知るっていうことは厳しいかもしだれん。でもみんなで検証し合いながら、それを捉えていくっていうことが、みんなでそれを解決していく世界を広げていくわけよ。そういった意味で今日語られたこと、訴えられたことを自分でこういう思いが広がっている。こうありたい、こう生きたい。この出会いを通して自分の人生、自分自身が人間として生きることの意味、そのことを問い合わせながら、最後いっぱい出してもらって授業を締めくくりたいと思います。それでは挙手してください。もうこれで終わります。いいですか。

16 僕のお母さんは在日韓国人です。ぼくは差別に打ち勝つていきたい

SM(紳紳・男)僕は小学校の頃から部落問題や人権集会などで勉強をしてきたんだけど、そのときはあまり僕には興味も関心もなくて、その時間になると適当に先生の話を聞いている、そういうことをしてきたんですけど、中学校に入ってそういう勉強の割合が増えてそういう中で、部落問題とか人種差別、在日韓国人の問題まで真剣に考えるようになりました。僕のお母さんは在日韓国人で、そういう時にお母さんのことと、差別のことが重なったことがあります。そういう差別に対して僕は、そういう差別をしている人を見たら腹立たしくなってきて、僕はその怒りを忘れないで他の差別とかにも打ち勝つていきたいし、そういう面で今思った気持ちとかを大切にしたいと思います。

17 僕も養護施設に住んでいることで、人間関係が崩れたりしたらとても悔しい

KH(紳紳・男)僕は『峠』という劇で、森口先生の役をやらしてもらって、その森口先生の役で台本の中の最後の方の台詞で、「人間関係がいい関係は、そんな集団は生きていくことが楽しくてうれしくて仕方なくなる。でも、その人間関係が崩れたら、その中にいじめられたり、さげすまれたり、死にたいと思う人も出てくる」という言葉があるんですけど、やっぱりそういう人間関係が崩れる原因として、差別というものがあると思うんですよ。それで僕もさっき話が出てたんだけど、僕も養護施設に住んでいることで、人間関係が崩れたりしたらとても嫌やし、他にも同じ所に住んでいることで、差別される友だちとかがいて、そういうことで人間関係が崩れてたりしたら腹が立つし、そういうことをしていくためにも周りやいろんな人たちに、こういう差別があるっていうことを知ってもらいたいし、そういうことを知ってもらったら、差別することも減ると思う。だから僕も自分が進んでいく道でそういうことに出くわしたら、僕はやっぱりそことは、絶対にあかんつてしまふと言えるようになりたいと思います。

18 我の夢は同和地区出身でプロ野球選手になること

YY(紳紳・男)僕は高校も決まっていて、高校で野球をしようと思っているんですけど、僕は同和地区に住んでいるんですよ。こんな大勢の前で僕が同和地区に住んでいるってことを話すのは、俺が住んでいる地区のことを自分で誇りに思っているからなんですよ。俺の夢は同和地区出身でプロ野球選手になることなんです。高校行っても野球部の友だちとかから、お前どこの出身やとか、お母ちゃんやお父ちゃんのことを言うたら嫌がると思うんですよ。そのときおれは自信をもって同和地区出身やと言いたいし、それに途中で俺が野球部を辞めたりしたら、野球部の友だちが同和地区のやつはバカたれやなあとか言うと思うんですよ。だからそれを言われんように頑張つていきたいと思います。

T15：板野中の仲間の中にも、野球部の子がいっぱいいるんです。甲子園で会いましょうね。

YY(弥栄中・男)はい！

T16：そのときは応援に行きますから…。

YK(弥栄中・男)僕は板野中学校の皆さん 의견を聞いていて、いろんな差別をなくしていく力をみんなでもっともつとつけていきたいと思いました。それとこんな大勢の前で堂々と発表できるということは、本当にすごいことだと思います。僕もいろんな学習の中で堂々と発言できるようになっていきたいと思います。今日はありがとうございました。

T17：今、返してくれた弥栄中学校の今日出会えた仲間と、こういう時間を持てたこと、みんなが思い切り伝えたから、また思い切り返してくれる。返してくれるからまた返す。そういうやりとり、高校へ行っても豊かな人間関係をつくる力よ。本当に語り合って、逃げるんではなくて、引くんではなくて、精一杯の生き方を貫くんや。自分にできることしかできん。自分にできることを精一杯やったらいいんや。自分が好きになったらいいんや。そういう自分をつくっていこうや。一生懸命語ってくれた弥栄中学校の仲間に、今の気持ちを何人の子かに語ってもらって、この時間を閉めたいと思います。

SA(男)去年学習会で来て、今年で2回目になるんやけど、京都はごっつい良いところってさっきも言っていたんだけど、こんな良いところでも、やっぱり差別はあるんやけん、なくしてかないかんと思うんよ。部落差別は僕らだけの問題と違うけん、みんなの問題としてこれから道徳っていうか、間違った捉え方をしているのに、人間として当たり前の生き方をする教育として、後自分を好きになることを最大の目標にして、今後の生き方を考えていったらしいと思う。

19 自分の身近な人から変えていくっていうことが大事ではないんかなあって思う

NN(男)今日は弥栄中学校にこれて、自分たちの意見とは違う意見を聞けてよかったですし、やっぱりこの場でもみんなごっつい真剣に話を聞いてくれているし、自分にとってはよかったですなあって思いました。僕が今日のこの学習を終えて思ったことは、やっぱりこの場で世間のことや差別をしている人のことはいくらでも言えるし、自分にとっての勝負っていうか、差別をなくしていくっていうことは、まず自分の家族を見つめるっていうことです。自分の家族の中にある差別意識をなくしていくっていうことは、一番身近にして一番難しいことではないんかなあって思います。自分自身の差別意識を認めると共に、自分の身近な人から変えていくっていうことが、大事ではないんかなあって思います。やっぱりこれからも自分が部落差別やいろんな差別に出会うと思うし、その中で自分が逃げるか、立ち向かうか、どっちかは分からぬけど、自分に悔いの残らない自分自身が取りたいて思える行動をとっていたらしいと思います。

IM(女)今日はここにこれて本当に良かったと思います。泣いてしまったけど、まあすっきりして、さっき休み時間の時に話しかけてくれた人がいて、ごっついられしかって、やっぱり良い仲間がいっぱいおることが今日分かったし…。私の周りには本当に良い人ばかりやけん、そのつながりをもっと大事にしていきたいと思います。

T18：ありがとう。実は3月14日の火曜日、板野中学校は卒業式です。その卒業式の中で今日の感動が見事に伝えられていくと思います。代表が答辞を読むんですけど、その中に語られる全体学習、人権・部落問題学習のよろこび。それは今日みんなと出会えた感動がそこにグッと刻まれると思います。最後に答辞を読むことになっている生徒会長から挨拶をしてもらって、この時間とても名残惜しいけど、最後閉めたいと思います。

YS(女)今日は本当にたくさんの人と会えて良かったと思います。この学校の子の意見とか聞いて、やっぱり

差別する側も、される側も、差別を解消していくことでみんなが解放されると思うし、それはつらいことではないし、それが実感できたような気がしました。やっぱりすごく身近な問題として家族とか友だちとかのつながり、みんなけっこうよくあると思うし、そこで一人一人ができることをしていって、いろんなつながりをつくっていきたいし…。今日はその大きな機会をいただいて、すごい私はとってもうれしいです。これからも京都と徳島でいろいろと頑張っていけたらなあって思うし、交流できたらなあって思います。本当にありがとうございました。

T19：このつながりは絶対やから、ずっとつながっていくし、高校に行っても、社会に出ても、ずっとつながっていく。この後またいろんな交流ができると思います。この出会いを大切にしていきましょう。

【授業記録】京都市立弥栄中学校ジョイント人権学習（参観者からの発言）

1 考え方っていうのは成長するんだっていう話が、1時間目の授業の中に出でてきた

藤(粟田小学校)私は弥栄中学校の近くにある粟田小学校の教師です。この授業の雰囲気はなんと言うんですかね、手を挙げたくなるというような雰囲気を感じました。すごい熱気です。後ろでもピンピン感じました。それで私は小学校の教師だから、弥栄中学校の生徒の授業っていうのを見たことがありますけれども、他の学校とのこういった授業っていうのを見たことがなかったんです。こういう形で見させていただいたことをすごく幸せに思いました。それで、どちらの中学校の生徒も、自分の中学校っていうのをすごく誇りに思っているなあっていうのをすごく感じました。それと板野中学校の生徒が、考え方っていうのは成長するんだっていう話が、1時間目の授業の中に出でたと思うんですが、それはすばらしいことだと思いました。そういうことを客観的に若者同士が感じられるっていうのはすごいなあと思いました。それはなんでかなあって思つた時に、やっぱり部落問題とか人権問題を糧として考えているから、そういうことができていたんだと思いました。今日はもう一つは弥栄中学校には、大半が有済小学校と粟田小学校という両方とも、僕らの近隣の学校なんですけれども、その子どもたちがきています。今日は残念ながら時間の関係で退席したんですけども、有済小学校と粟田小学校の子がもう1ヶ月もたてば、この弥栄中学校に入ってくる子どもたちをつれてきました。今はもう二人ともいないんですけども、何か感じることができたんじゃないかなあって思っています。それから私も一人の人間として、これから良い人間関係をつくっていきたいなあって思いました。ありがとうございました。

2 人と出会う時って、絶対摩擦っていうのがある、摩擦がないような出会いは熱がでません

田中(高砂小学校)長い時間ご苦労さまでした。私は兵庫県の高砂っていうところから来ました。高砂小学校というところです。今日授業見せてもらった森口先生の同級生です。同志社大学で同じ同級生で、教師になってからもいろんな話をできました。皆さんの話を聞いている中で、またその話を聞きながら高校に対しての不安があったりとか、人の出会いに対してちょっと否定的に考えている言葉とかちょっと違うぞっていうこともあるし、僕自身も今日の先生のように地区の子から出身を明かされて、そんなん関係ないってしか言えなかつた男なんで、ずっとそのことを今でも心に置きながら、小学校の教師になって、今、在日の子どもたちと、いろいろな差別をなくすために取り組んでいます。皆さんの話を聞いていたら、自分の若い時の話、若い時に親に対する反発、私自身にとっても、ごつい差別的なことがあって喧嘩をしました。誤解がいっぱいあって、だから分からない。だから、高校に対する不安というのも、恐れたらあかんと思うんです。人と出会

う時って、絶対摩擦っていうのがあるから、摩擦がないような出会いは熱がでません。お互いに熱を与え合うためには摩擦しかありません。僕と森口君との出会いも摩擦でした。まあ君たちが今したように、僕も自分をぶつけました。そんな出会いの中で、今ずっとつながっています。彼は本当にねばり強く教師になってからもやってきて、君たちをここへねばり強くつれてきたと思うし、私も兵庫県から多くの仲間に誘われて、この授業に参加しました。いろんな不安は分かるんだけれども、今までやってきたことの自信、今までの思いを言ってくれたんだけども、部落出身のプロ野球選手っていうのも地区を誇りに思っているっていう、自分という人間と自分の地区、自分の両親、祖父母の歴史をきちんと見ていて誇りに思ってください。自分に対する差別的な教育をした父親、母親はいますけど、誇りに思ってください。なぜか、いろんなものの見方があると思います。完全否定じゃなくて、そういうことと出会わせてくれた、生命を授けてくれた。いろんな出会いがあると思うんです。そこを誇りに思って、そして、いろんなことを通していろんな発言があつたと思うんです。自分を振り返っていくってことはすごく大切だし、摩擦っていうことを恐れたらいかんと思うんです。軽い、軽い出会いなんだと思つたらいいんです。やっぱりぶつかっていって、なんやって言いながらも、そこから生まれてくる出会いが大事だから、高校に入ってからのことを恐れないでください。いっぱいいろんな楽しいことが生まれてくるだろうし、違う仲間の中に自分の好みの子がいるかもしれないし、女の子はみんなステキな男の子がいるかもしれんで…。そういう出会いがいっぱいあると思うから、本当に楽しくおかしく、今から考えたら分からぬこともある、でもそういう出会いの中でいろんな話が広がっていくと思うから、決して恐れないで、そして、楽しい高校生活を送るきっかけっていうんをずっと今までやっているから、頑張ってほしいと思います。私もこれからいろんな人とつながっていこうと思っていますので、今の君たちの発言っていう人は全部メモしました。小学校の教師ですが、僕は今4年生の子どもとやっています。在日の子どもも4人います。本名で名前を呼び合っていけるように子どもたちと取り組んでいるんですけども、いろんな形で踏ん張っている教師もいます。高校が絶対ダメではないし、小学校がダメでもないです。一つの枠の中で捉えられて聞こえないようにしているんです。お互いに元気よくやりたいと思うので、私も元気を持って帰りたいと思います。本当にありがとうございます。皆さん、本当に2時間の授業するっていうは大変なんですよ。本当に大変なところで本当の力が出るんだと思います。

3 涙を浮かべながら喋っている地区の子に、その思いを返していく姿にすごく感動しました

金(京都韓国中高等学校)京都韓国中高等学校から来ました。教師をしています金一恵です。京都韓国中高等学校から3人の教師が来たんですけども、みんな在日韓国人です。今日は4校の交流会もありまして、弥栄中学校でこういう公開授業があるっていうことで参加したんですけども、本当に少しずつみんなの思いが出てくるっていうことで、すごく一人一人の意見を一生懸命私も聞いて、そのを一つ一つを私も在日として生きてきた中で引っかかってくる、一人一人の皆さんの思いがあって、最後こういう時間があったら、言おうかなあと思っていました。この会場の生徒一人一人から、涙を浮かべながら喋っている地区の子に、その思いを返していくっていうことにすごく感動しました。私が在日として生きてきた中で一番つらかったことは、周りの日本人の人があまりにも知らない。自分の存在理由であることとか、差別の現状であることとか、歴史とかあまりにも知らなくて、私が在日朝鮮人っていうことを日本人と変わらないけん関係ないって、簡単に言ってしまうことが一番つらかったんですよ。でも、その私が私は在日朝鮮人です、こんな思いで生きていますっていうことを言っていくっていうこと…。みんながすごく幸せなのは、それを聞いてくれるこういう仲間がいるっていうこと、本当に幸せやと思うし、これから高校に行っていく中で、一生懸命言っていても返事が

帰ってこない人もいます。それを諦めないで、みんなもそれに答えていく返していく、それをし続けるっていうことを諦めないで、自分らしく生きていくということを諦めないで、頑張ってほしいと思います。それと韓国中学校の生徒がこの授業を見たら、すごく在日の生徒たちも勇気づくんじゃないかなあと思います。それだけ一生懸命差別のことを考えている中学生が、こんなにいるっていうことは、私の学校の生徒たちもすごく勇気になるだろうなあって思って、また話をしたいと思います。ありがとうございました。

4 自分自身が目の当たりにした部落差別の現実を訴えたことがあった

土鷹(城鶴高)京都の高校の教員をしています。板野中学校の皆さん、高校に不安をもっていると思うけど、私の学校の私のクラスのことを少し紹介しておきます。3年間に私の学校に来ていた部落の子なんですけど、その2年、3年、僕のクラスで部落外のみんなに話をしました。なんでその子が話ができるんかって言ったら、高校の場合は、なかなか全体学習みたいな場はないんですけども、でも何かにつけて感想文を書いたりするような時間はとっています。その感想文の中にやっぱり自分の中学時代の体験を書いてくれた子がいたんですけど…。自分自身が目の当たりにした部落差別の現実を訴えたことがあったんです。そんなやり取りの中で、すごい人権学習ができたんです。そこからクラスは大きく変わりました。今、不安も抱きながら期待も持っていると思います。言わないけれどもうちの学校っていうのは、高校中退っていうのがすごく問題になっています。でもうちのクラスはその部落の子の宣言のあと変わりました。みんなが支え合って、たまには叱りあって、勉強は嫌やって逃げ出しそうな子の首根っこ捕まえて、いっしょに勉強しようやって、3年に上がるんやって言って、みんなで一致団結して進級できたっていう出来事がありました。皆さんきっとそういうふうな発信をしやってくれるんじゃないかなあと思います。スキッとすばらしいクラスを高校にいってもつくってくれるんでないかなあと、そういうふうな期待をしました。今日は本当にありがとうございました。

5 本当に悩んでいる子がいたら、その子に寄り添いながら、自分の問題として考えている

安田(部落解放同盟東三条支部)地元の東三条の部落解放運動をやっておる人間なんですけれども、今日はみんなの学習している姿を見せていただいて、本当に感動をしました。部落差別の問題はやっぱりきちっと真正面からみんなが立ち向かって、自分の思いをしっかり語ってくれたっていうことが、影ながらもうれしく思いました。実際にはそんな勉強をしてほしくない。あるいはそんな教育してほしくないっていう考え方がある、ずいぶんこの京都の中でも、この東三条の地域を含む弥栄中学校でも、非常に長い間そういう考え方方が強かったんです。学校の中でもそんな教育っていうのはあまりやられてこなかった。しかし、弥栄中学校がよみがえるっていうか、変わるというのが板野中学校との交流がこうやってされるようになってからです。大きく変化していったというふうに私どもは思っております。みんなで自信を持ってほしいなあってっていうことを今日思います。板野中学校3年A組の皆さん、本当のクラスをつくったなあと思います。本当に悩んでいる子がいたら、その子に寄り添いながら、一人で置いておくんではなくて仲間がやっぱり支えていこう、自分の問題として捉えて考えていくこうというような、そういう行動や姿勢が見えていると、授業を見ている私たちは本当に感じました。すごくそこが大事なんでないかなあって思うんです。だから高校にいっても、あるいは社会に出たときにも、みんなの原点はここにあるんやろうっていうことを常に再確認しながら、いろんなところで頑張っていってほしいと思います。弥栄中学校の皆さん、僕は三条に生まれて、僕はこの地域を誇りに思うっていうのを言ってくれた生徒もおります。これも大変私は勇気づけられているし、頑張って道を切り拓いていってほしい。自分の夢をつかんで欲しいというふうに思います。板野中学校の生徒が、徳島で今年全国奖学

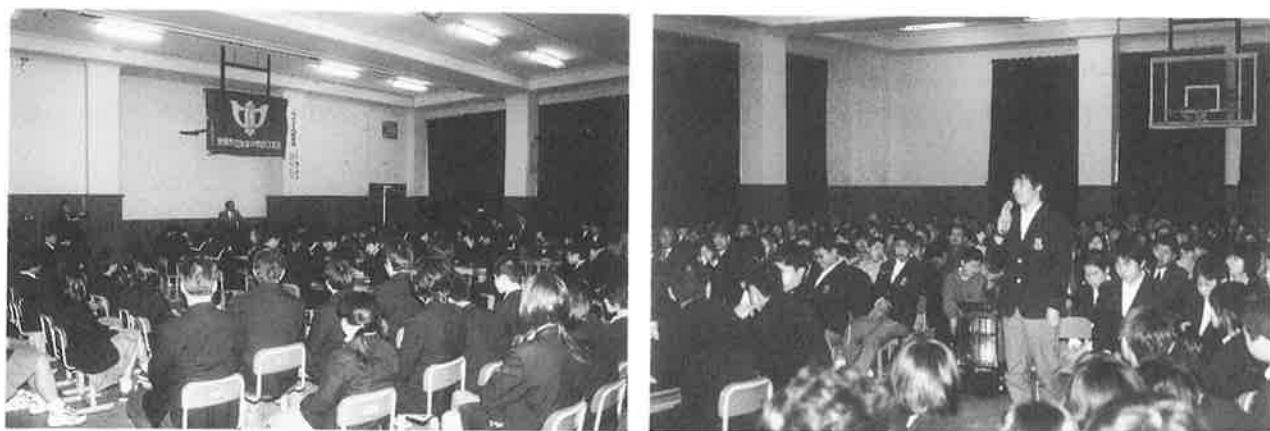
生集会があるっていう話もでました。私も寄せてもらうっていうか、京都の仲間を連れてそこに行くんですけども、弥栄中学校を卒業する皆さんも、是非参加し交流の輪を広げてください。またそこで会えることを本当に期待していきたいと思います。今日は本当にありがとうございました。

6 来年の3月3日に若者が集まる集会を開きます

川口(桃山学院大学)本当に長い間お疲れさまでした。僕は大学生です。みんながここに伝え会っている仲間がおるでしょう。高校にいってもすぐには変わらんですよ。僕もそうでした。学校の同和教育最低でした。でも、ここでつながった仲間がおる、全国におるんですよ。今日も全国から来ているんですよ。三重や鳥取や島根、僕の出身は愛媛やけど頑張ってください。大人の世界に入ったらしんどいこともいっぱいあります。自分さえしっかりもつとったら何とかいけます。しつこくしつこく粘っていったらいいんです。来年の3月3日にそんな若者が集まる集会を開きますので、今年1年動きます。また皆さんつながっていきましょう。いい出会いをありがとうございました。

7 社会に飲み込まれるんではなく、自分が飲み込んでいくっていう気持ちをみんなでつくっていこう

大森(四国学院大学)板野中学校卒業生の大森和幸っていいます。今香川の四国学院大学で頑張ってやっているんやけど、さっき言っていた子がおったけど、「今」「ここ」でしゃべて泣けるんは、この場やけんじやっていうことをほんまみんな胸に止めておいてほしい。自分が高校に行ったら自分のクラスに板中の子が40人中35人もおったけど、部落問題のことやりたくない、そんな声が本当に出てくる。それが中学校を出てからの苦しさなんよ。大学へ行ったり、就職したりしていくと、そんなに差別っていう壁にぶち当たる。俺は部落外なんやけど、今すごく頑張りたい、頑張ってる自分でありたいと思う。それはすごい簡単なことなんや。差別したくないし、されたくないし、黙つときたくないし、伝えたいし、自分が思ったことを言っていきたい。高校、大学とそう思ってきたけん今やっている。今この場にいる皆さんにもほんまにそれを伝えたい。今しゃべれるんはこの場、けど、それをつなげていく人がこれからのみんなの高校生活なんや。自分自身を本当に見つめてくれって…。社会に飲み込まれるんではなしに、自分が飲み込んでいくっていう気持ちをみんなつくつていってほしい、おれもつくっていきたい。みんなに頑張っていってほしいって言う限り、おれも頑張っていく。頑張っていきましょう。



弥栄中学校ジョイント人権学習 於・京都市立弥栄中学校体育館

6 差別と闘おうとする炎を、身体を熱くする炎を今、在校生の皆様に託します

私はこのジョイント人権学習の最後に、3日後に控えた卒業式の答辞のことを敢えて語った。私は板野中学校で10年間全体学習を核として道徳学習や人権・部落問題学習に、自分の存在をかけて取り組んできた。その10年間のまとめ、最後の全体学習となつたのが、この弥栄中学校の体育館で実施したジョイント人権学習である。

このジョイント人権学習の感動をそのままそっくり板野中学校の生徒たちは、板野中学校に持ち帰り感動的な卒業式をつくった。そして、感動の卒業式の後、3年A組の生徒たちは最後の授業を卒業式に参加してくれた保護者に届けるようになる。

それは、卒業式後、全員の保護者に教室に入っていただき、そこで一人一人の生徒が板野中学校での3年間を語っていく授業である。その授業の中で、母子家庭という状況で必死に自分を支えてくれた母親への思いを口にした瞬間、涙で言葉を詰まらせたC子の発言がある。そのとき、後ろでその姿を見ている母親から「Cちゃん、頑張ったよ」と声が飛ぶ。その声に後押しされるようにC子は語り続ける。

また、一番前に座っていた大きな体をしたS夫が、前に出て教室全体のクラスメートや保護者に向かって語り出す。S夫の目からは大粒の涙が吹き出るのだが、その涙を拭きもせず3年間を語つていくのである。

そんな仲間の発言に一人一人の生徒が自分自身の思いを返していく。まさに3年間の営みがこの瞬間にためにあったように燃える時間である。前の方でビデオを廻している保護者の目にも涙が溢れ、涙を拭き拭きビデオを撮っている姿が、教室をより熱いものにする。

本来ならば、そこで担任がその思いを語ることで締め括られる時間であるが、全体学習を通して本気で自分自身を語ってきた生徒は、自らの精一杯の語りで板野中学校での教育の営みを見事に締め括っていくのである。

最後に、全体学習がベースにある卒業式を象徴する卒業生の答辞の一節を引用する。

【今静かに目を閉じますと、過ぎ去った3か年の様々な思い出が浮かんでまいります。何もかもが新鮮で期待と不安に胸ふくらませながら臨んだ入学式。クラス一つになり、友情の輪をより広げた体育祭や文化祭。また、2年生の修学旅行は自然の雄大さに感動し、戦争の悲惨さに触れ、平和への願いを強くした貴重な体験でした。真夏の太陽の下で、雪の舞う寒さの中で友と励まし合い、厳しい練習に耐えた部活動。自分との闘いだった受験勉強。

そして、学年、学校全体で取り組んだ部落問題学習。私たちはこの部落問題学習で涙を流しながら自らの想いを語る友と、差別の怒りに震えた友と共に感し合い、支え合い、仲間の絆を深め合うことができました。「本音を語る」たったそれだけのことがどれほど苦しいことなのか。私たちはこの学校で、この体育館で初めて知りました。部落問題学習に取り組んでいたときの私は「輝いていた」と自信を持って言うことができます。私たち卒業生は、この差別と闘おうとする炎を身体を熱くする炎を今、在校生の皆様に託します。】